

学習者の運用に繋げるための類義性を持つ実質語の使い分けに関する研究
—中国語母語話者における「準備」「用意」「支度」の使い分けを例に—

東亜大学大学院 総合学術研究科
人間科学専攻
21HD151
安 蓉

学位論文要旨

本研究は日本語教育現場のニーズから出発し、類義性を持つ実質語の使い分け規則の構築、及び、教え方の提案を行ったものである。具体的には、「準備」「用意」「支度」という類義性を持つ実質語を対象とし、複数のコーパスを用いて分析を行い、その使い分け規則を構築した。それに加え、対応する中国語【准备】と対照を行うことにより、両者の対応関係を明らかにした。さらに、その結果を「無標—有標」の概念を用いたフローチャートを作成する形で教え方の提案を行った。

まず、「準備」「用意」「支度」の使い分けについては、①名詞用法において「準備」はデキゴト名詞を取る傾向があるのに対して、「用意」はモノ名詞を取る傾向があること、②名詞用法において、「支度」は「移動」に関わるデキゴト名詞と共起する傾向があるが、使用範囲が限られており、基本的に「準備」で置き換えられること、③「食」に関わる名詞は「準備」「用意」「支度」と共通して共起していること、④漢語サ変動詞用法において、「準備」「用意」「支度」はいずれもモノ名詞を取る傾向があるが、「準備」と「支度」は使用範囲が限られており、基本的に「用意」で置き換えられることの4点を明らかにした。この結果から、学習者の母語を考慮しない場合の教え方として、漢語サ変動詞用法においては、「用意する」を中心に教えること、名詞用法においては、デキゴト名詞の場合には「準備」を、モノ名詞の場合には「用意」を使用すると教えることを提案した。また、この際、「支度」は理解レベルに留めることも提案した。

次に、対応する中国語【准备】との対応関係については、①名詞の「準備」と名詞の【准备】が対応していること、②名詞の「用意」は動詞の【准备】と対応していること、③「用意する」は【准备】の動詞用法と対応していること、④「食」に関わる名詞と共起する場合、名詞の「準備」「用意」が動詞の【准备】と対応していることの4点を明らかにした。この結果を踏まえ、日本語教育において中国語を考慮した学習者への教え方として、①無標の場合において、動詞用法においては【准备】の考え方で「～を用意する」を使ってよい、名詞用法においては【准备】の考え方で「～の準備」を使ってよい、②有標の場合において、動詞用法においては食に関わる名詞と共起する場合、名詞用法の「～の準備」を使用する、名詞用法においてはモノ名詞の場合、「～の用意」を使用することを提案した。